

タイトル マンション下の「敷地」-内と外をつなぐ住み場所
 設計 田野建築設計室
 施工 (株) 松下組

タイプ 持家共同建
 構造 鉄筋コンクリート造

講評 敷地の緑を取り込んだ広縁に続いた空間は、まるで一戸建て住宅のようである。土間空間や、子供たちが自由に走り回れる空間は、マンションの1階という条件を最大限に生かした設計であろう。時間を刻む自然素材が家族の成長を見守る、のびやかな住まいである。

リフォーム前後の写真



①板間から広縁を介して内ニワをみる。設えの階層性により木造住宅のような内と外の関性を生み出している。



③土間1から板間をみる。



④畳間から板間・内ニワをみる。

⑤土間1から土間2をみる。



②土間2から板間をみる。部屋中央の八角柱が一室空間を緩やかに仕切る。



⑥くぐり戸を介して畳間。



⑦内ニワから広縁をみる。アジャスターホルドで立つ自立柱が木造住宅の軒下空間のような半屋外空間をつくりだす。

リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など

マンション一階の改修。三方が外部に面した豊かな配置であったが、典型的なマンションの間取りのため、周辺環境を生かした外とのつながりや部屋同士の関係が希薄で、風や視線の抜けが閉ざされた閉鎖的な印象を受けた。住み手は設計者自らとその家族で、周辺環境を意識した戸建て住宅のような内と外の関係と、閉鎖的で単純な部屋割りに対して自由で広がりのある間取りの中を風が通り抜け四季を感じる、ニワのある木造住宅のような住まいを目指した。新築住宅同様に建物配置から眺めて敷地を読むように計画。北と東に共用となる中庭（外ニワ）南側に専用庭（内ニワ）と三方にニワをもつ間取り（敷地）に対

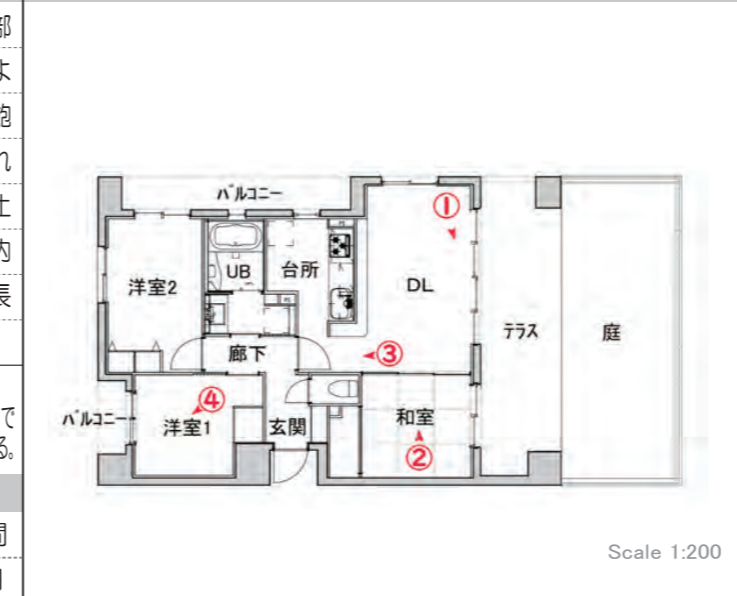
し、各ニワに面する部屋同士が見え隠れしながら繋がるように廊下をなくし部屋同士や広縁など内外を自由に行き来できる回遊式プランとした。回遊性により、外にまで視線が抜ける広がりとお流る室内環境の中を子供達が自由に飽きることなく走り回る。南面の内ニワに対してはアルミサッシ一枚で仕切られるマンション特有の閉鎖性に対して、軒先に立つ自立柱や広縁、垂壁や敷居土台といった階層性のある設えによって、木造住宅のニワと軒下空間のような内と外との関係が生まれた。多種多様な自然素材は時間の中で住み手と共に成長し続け、未来に住まいの価値を繋げる役割を担っていく。

性能向上の特性
 遮音性能（二重床）、耐久性（素材・無垢材）、室内空気環境（自然素材）、通風（間取りと開口）

特に配慮した事項
 遮音床と断熱材による二重床は遮音と断熱性能を向上、自然素材を用い室内空気環境を改善、廊下をなくした間取りにより通風を確保、限られた面積の中で最大限広さを獲得するために薄壁としながら、遮音シートと断熱パネルで部屋同士の遮音・防音にも配慮、床材に短尺の無垢材を用いて搬入性を考慮している。

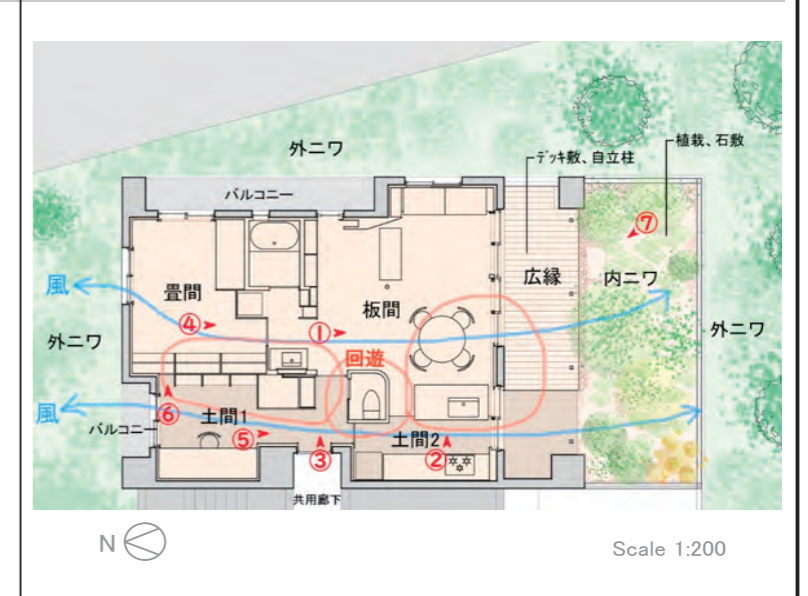
所在地	京都府京都市	新築竣工年	2006年	築後年数	13年	施工期間	90日間
該当工事床面積	65.44㎡	総工事床面積	65.44㎡	該当部分工事費	1100万円	総工事費	1100万円
居住者構成	65歳以上：0人 / 15～64歳：2人 / 15歳未満：2人 /						

リフォーム前の平面図



Scale 1:200

リフォーム後の平面図



Scale 1:200

リフォーム部位：■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ □階段/ ■玄関/ ■クローゼット/ □マンション共用部分/ □その他